



集い
ました
地区球技大会



令和 7 年 3 月 1 日 現在	2,055
総世帯数	4,739
総人口	2,344
男	2,395
女	



ソフトバレーボール 寺家町会 4 連覇!

3月2日(日) 神林体育館にて、町会対抗の神林地区球技大会が開催された。各種目の入賞町会は次の通りです。

◆ ラージボール卓球
 優勝 … 南荒井町会
 準優勝 … 町神町会
 3位 … 梶海渡町会
 敗者復活優勝… 下神町会

◆ ソフトバレーボール
 優勝 … 寺家町会
 準優勝 … 川東町会
 3位 … 町神町会
 皆さんお疲れ様でした。

2月10日(月) 神林福祉ひろばにおいて記念行事が開催された。

平成11年7月を初回到神林地区食生活改善推進員が主催となり、年に3〜4回程度のペースで教室が開催されてきた。

当日は調理室で記念の100回目の料理作りに挑戦した。続いての記念式典では、あいさつの後、参加者全員で作った料理に舌鼓をうった。

ある参加者は、「自分で料理することは、健康維持と認知症予防にもなる」とそ



第100回
を迎えた
男性の
料理教室

当日の挨拶にて「これだけ続くのは神林だけです。さらに200回を目指して大勢の方に参加を」と語った。

レシピ集にて、同協議会顧問の矢島郁子さんは、料理教室を立ち上げた目的について、男性に料理に慣れてもらい、食生活に関心を持って今後の生活に役立つように、そして参加者同士の交流の場になるようにと始めたもの。開催当初年1回が大変好評であったことから年数回へととなり、今回で100回目を迎えられる大変感慨深いものを感じていると寄稿した。さらに、

の効果に大きな期待を寄せ今後も続けたいと感想を述べていた。

100回の記念で、今までに作った料理の中から人気のあったものを「レシピ集ベスト20」として発刊、参加者全員に配布した。

レシピ集にて、同協議会顧問の矢島郁子さんは、料理教室を立ち上げた目的について、男性に料理に慣れてもらい、食生活に関心を持って今後の生活に役立つように、そして参加者同士の交流の場になるようにと始めたもの。開催当初年1回が大変好評であったことから年数回へととなり、今回で100回目を迎えられる大変感慨深いものを感じていると寄稿した。さらに、



一方、闇バイトによる犯行は全てが強引だ。住宅を壊してまで侵入する。犯人に対して抵抗したために、最悪の場合命を奪われてしまう。事件が明るみになってから、「何か大声が聞こえていた」等、近隣の人の驚きの声が報道されることもある。

周りに対する無関心さが当たり前の昨今、我が事とならぬようしっかりと用心しなければと思う。

「はて、この電話番号は誰だったかな？」携帯電話が普及し常に持ち歩いている昨今、どなたも一度は経験していることではないだろうか。

やみくもに電話をかけ、ひっかかる人を待つ「オレオレ詐欺」という犯罪を聞いて久しいが、今や何の変哲もない様な求人広告で人集めしている「闇バイト」と称する集団が世間を震撼させている。

オレオレ詐欺は、巧みに人間の心理をつき「今すぐに対応しなければ」と相手に冷静に考える隙を与えず大金をだまし取る。だまし取られた被害者が冷静になってから家族等に相談して初めて被害に気付く。

鎖川

●松本市スポーツ協会● 栄光表彰を受賞

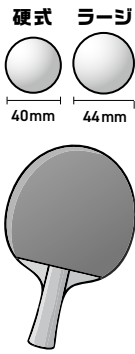
上原 節子さん (84歳・南荒井)

昨年第37回全国ラージボール卓球大会女子シングルス80で第3位に入賞し、同年松本市スポーツ協会の栄光表彰を受けられた。5年前には北信越大会で優勝。

卓球を始めたのは高校生の時で3年間続けイターハイに出場。卒業してからは暫く卓球はやっていなかったが、地域にママさんバレーボールクラブができたのでバレーボールを始め、30歳から70歳まで40年間続けてきた。

ところが、クラブがなくなっ
てしまい、何か運動をした方が
いいかなと思いい、高校時代
やっていた卓球なら少しはや
れるかと、松本市の3つの卓
球クラブに入った。週3回自
ら運転し参加して、14〜15年
になる。

卓球の球には硬式ボール
(直径40ミリ)とラージボール
(直径44ミリ)がある。あま
り球のスピードが出ないので
ラリーを続けることができる



キーワードはなに?

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。アンケートにお答えいただいた正解者の中から抽選で5名に500円分の図書カードをプレゼント! 締切は4月25日(金)、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております!

【前回の答え】

えほつまき

【今回のキーワード】

○○○○○



ラージボールを楽しくプレーしている。
今、健康に過ごせるのは卓球のおかげ。日々卓球のスケジュールがあることで、緊張感があり張り合いである。
「84歳になった今、85歳からのクラスに挑戦するのが目標です」と前向きな思考が上原さんの原動力になっている。

信州ゲーム クリエイター賞を受賞! 役に立つアプリ開発



1月26日(日)に長野市にて信州ゲームクリエイターズチャレンジ2024が開催され、下神在任の黒崎遙さん(菅野中2年)、黒崎奏さん(菅野小3年)、黒崎匠さん(菅野小3年)が信州ゲームクリエイター賞を受賞した。また同時間催のオモコン2024では黒崎匠さんが3位に入った。

信州ゲームクリエイターズチャレンジはゲーム開発を通じて社会課題を解決できる起業家の育成を目的とした大会で、ゲームクリエイターが独自に開発したゲームをプレゼンし、企画力、技術力、表現力などを評価する。遙さんは個人とチームで過去2年連続最優秀賞を受賞している。



引用: オモチム公式サイト <https://www.omochim.com/>

今回、「防災クッキングマスタ」を発表。このゲームは災害時に限られた食材と火力で何を調理するか考える。残された食材で3日間食べつなぐ、食材のロスなく消費出来ると得点が高くなる。冷蔵庫の開閉での温度上昇、使用できる火力に制限があるなど、災害時に則した設定となっている。

オモコンでは株式会社アソビズムのアプリ「オモチム」を使い、仮想空間でゲーム対戦し、トーナメント形式で順位を争う。まずはアプリで部品を組み合わせて独自の小型メカ「オモチム」を作成する。作成したオモチムを操作して対戦する。今回はボールや爆弾などをサッカーゴールに数多く入れて得点を競うゲームで、勝利するにはオモチムの完成度と操作技術が要求される。年齢制限はなく大人も子供も対等に勝負できる。匠さんは優れた操作技術で高得点を上げることができ、好成績を取めた。



お父さんの勧めで遙さんが4年前からゲーム開発を始め、兄弟も手伝うようになり、チームでゲーム開発ができるようになった。行動につながるゲーム、人の役に立つゲーム作りを目指している。今後はオリジナルキャラクターづくりや地域の交通問題解決アプリ、仮想空間づくり、お気に入り、のぬいぐるみの3D化などを、楽しく役に立つアプリ開発を目標にクリエイトを続ける。

